

明日6月23日は『沖縄慰霊の日』

世界史の時間に沖縄修学旅行の事前学習をかねて『さとうきび畑の唄』を見ていると思います。映画を見て、沖縄戦の姿が少しは理解できてきたのではないですか。でも、あの『さとうきび畑の唄』は、もともとテレビ用映画として作られたものですから、表現上の制約も多く、実際の戦場よりもかなりきれいに作られています。

もっと激しいシーンが描写されている映画『ひめゆりの塔』（沢口靖子主演）を見たとき、かなりリアルに表現していると感じました。しかし、その映画の制作に関わった「ひめゆり部隊」の生き残りの方にお話を聞く機会があったとき質問したところ、「本当の沖縄戦はこんなものじゃない」と言っていました。映画という制約があるので、あの描写がギリギリいっぱいだった、ということです。それでも私には十分リアルに感じた映像でした。みんながよく使う言葉で言えば、「グロすぎる」映像表現でした。それでも本当の戦争には全然かなわないのです。本当の戦場は、TVゲームや劇映画とは全く違うのです。

『命どう宝』

そんな戦争をくぐり抜けて生き残った命がつながって、現代の私たちがいるのです。昨日配った第6号に『命は宝』と書きましたが、沖縄言葉（ウチナーグチ）で言えば『命^{ぬち}どう^{たから}宝』と言います。有名な言葉なので知っている人も多いと思います。（1994年に放送されたNHK大河ドラマ『琉球の風』で広まったと思う）

みんなは『赤ちゃんとのふれあい体験』の中で、命の大切さ、いとおしさ、そして弱さを学びました。

すべての命は大切に扱われなければならないことも学んだと思います。

しかし、太平洋戦争では、多くの命が軽く扱われ（召集令状のはがき一枚で一つの命を自由に扱える）失われていきました。日本で唯一の地上戦である沖縄戦では、軍人だけでなく、民間人やひめゆり学徒などの学生も戦争にかり出され、多くの命がむなしく消えていきました。

『慰霊の日』は、この戦争に巻き込まれ、命を落としたすべての犠牲者を、敵味方・国籍の区別なく追悼し、平和への誓いを新たにする日なのです。

沖縄戦をとおして、戦争について学び、平和について考えることは、私たち2学年の沖縄修学旅行のテーマのひとつです。ですから、明日は新聞やテレビで放送される『慰霊の日』の報道や、ニュース番組の中で組まれたりする特集を必ず見て下さい。

絶対だよ！

進路講演会

みんなの感想から

- ・フリーターは何が悪いらろうと思っていたが、正社員との年収の差が大きくてびっくりした。
- ・フリーターにはなりたくない。
- ・今後の人生は今からの進路で決まるので、早めに決めた方がいいと思った。
- ・しっかり自分の進路を見つけて、将来について目標と実行力が必要と感じたから頑張る。
- ・苦手なことでも一生懸命取り組んであきらめなければ叶うと思った。
- ・今からできることをがんばる。
- ・仕事につけるように遅刻・欠席しない。